

龍ヶ崎

たつのこまで

茨城県龍ヶ崎市子育て応援マガジン

Ryugasaki City
TATSUNOKOSODATE

たつのこまで

Ryugasaki City

茨城県龍ヶ崎市子育て応援マガジン



— Landscape In Child Rearing

北竜台公園で遊ぶ、外村友紀さんと3歳の長男・楽くんと8か月の長女・華ちゃん。

龍ヶ崎市子育ての風景

二〇一三年、結婚を機に、旦那さんの実家がある龍ヶ崎に引っ越してきたのは、アーティストの外村友紀さん。東京で生まれ育った外村さんにとって、龍ヶ崎のすべてが新鮮だったそう。

「遠くまで見渡せる風景に驚きましたね。龍ヶ崎で二人の子どもを育てていますが、自然が豊かで子育てにいいなと思っています。この北竜台公園も、子どもとよく立ち寄るお気に入りの場所です。さんさん館子育て支援センターに行ったり、ファミリーサポートセンターに子どもを預けたりと、龍ヶ崎の子育て支援制度はすごく便利。今のところ子育てで困ったことはないです」

現在は東京都内近郊の美術館や小学校、ワークショップスペースなどで活動している外村さんですが、今後は、作品の創作活動に加えて子どものためのワークショップを龍ヶ崎でも開催していきたいと夢は膨らみます。

<http://www.yellowpony.net>

たつのこまつな

幼なじみができる街	3
パパに聞いた子育ておすすめスポット	6
「とにかく仲良くなつて欲しい！」 仲間のできるスポーツクラブ	7
チャレンジし続けて見えてくる世界	8
トッパスリートを育てた 誰とも比べない子育て	10
本はもちろん おはなし会も大人気	11
ここは、街の保健室	12
龍ヶ崎での子育てのコツ お教えします！	13
子育てたつのこアクション・インフオメーション01 子育ての頼れる相棒「たつのこまつな」 県内初！駅から保育園への送迎サービス	17
我がスクールサポーター！ 地域で家族のように見守ります	18
教育は人づくりたくさんの経験の場を	19
子育てたつのこアクション・インフオメーション02 塾で楽しめるイベント情報	23
子育てたつのこアクション・インフオメーション03 目撃せ！子育て環境日本一！	24
龍ヶ崎市から世界へ！	25
龍ヶ崎市子育ての風景	26
	27
	28
	29
	30
	31

龍ヶ崎市には、都心に近いとは思えないほどに豊かな自然環境と、妊娠から出産、子育て、教育まで一貫して受けられる子育てサポートがあります。二〇一二年に「子育て環境日本一」を掲げた龍ヶ崎市。二〇一六年発足のサイト『子育てたつのこアクション』では子ども向けの遊び場やママ・パパへのサポート情報などを紹介しています。その一環として、龍ヶ崎に住む親や子どもたち、そして子育て世代をサポートする市民の方々取材し、リアルな声をまとめた冊子を作りました。タイトルは、『たつのこそだて』。「龍の子、育て！」と子どもたちを応援。「龍の、子育て」という、子育て家族に役立つ情報誌という意味も込めています。龍ヶ崎市で育った、たつのこ“たちの話から、龍ヶ崎市には世界への扉があることがわかりました。さあ、扉の向こうにある龍ヶ崎の子育ての風景を覗いてみましょう。

幼なじみが できる街

子育て環境日本一を掲げる龍ヶ崎市。その実際のところはどのようなのでしょうか？ 龍ヶ崎のシンボル『たつのこやま』の隣にある「さんさん館子育て支援センター」（以下、さんさん館）は、子育て世帯の強い味方。三歳までの子どもが自由に遊べて、子育て相談もできるさんさん館に遊びに来ていた四人のママたちに話を伺いました。普段どんなところで遊んでいるの？ さんさん館はどれぐらい役に立つ？ 龍ヶ崎市民として子育て支援をどう感じている？ 様々な質問をぶつけてみたところ、リアルな答えが瞬時に返ってきました。

——みなさんが龍ヶ崎で子育てをしていて、日頃どう感じているかをお聞かせください。妊娠中から龍ヶ崎に住んでいた鈴木さん、福永さんは、出産にあたってよかったことはどんな感じでしたか？

鈴木 プレ・ママ教室は人気がありますね。私も妊娠七か月のときに参加しました。初めての子なのでいろいろ不安だったけど、お風呂の入れ方などをそのときに教わることでできて、安心して出産に臨めました。（龍ヶ崎市保健センターで実施）

福永 妊娠中でもさんさん館に来て相談していいですね。私は妊娠中に一人で悩んでいたのですが、当時知っていたら相談に来ていたのになって思いました。妊婦さんにはおすすめです。

——みなさんはどこでママ友を作りましたか？

福永 プレ・ママ教室と、出産した龍ヶ崎済生会病院でもいろんな人と仲良くなりましたね。妊娠中に会った人たちは今でも仲良くしています。

鈴木 私はさんさん館ですね。最初に来たのは子どもが生後六か月ぐらいのときでした。そろそろ幼稚園の情報が知りたいなと思っていたとき、菅谷さんに声をかけてもらったんだよね。菅谷 そうそう、さんさん館でよく顔を合わせていたから仲良くなっていたんだよね。私もさんさん館でたくさんママ友ができました。毎

日に近いぐらい通っていたら、いろんな人が話しかけてくれたんです。

富山 私もママ友を作ったのは、プレ・パパ教室とプレ・ママ教室、さんさん館。プレ・ママ教室で福永さんと仲良くなって、さんさん館にも誘ってもらいました。

菅谷 子どもが同じ年ぐらいだと「どの小学校ですか？」って聞いたりしてね。そうやって輪が広がっていました。

——龍ヶ崎市で子育てしていてよかったな、と思うのはどんなときですか？

福永 やっぱりさんさん館があることですね。子どもの食事のことや、成長についての心配ごとなど、ちょっとしたことも気軽に保育士さんに相談できるんです。

鈴木 私もさんさん館でよく相談しています。うちの子が二歳からイヤイヤが始まったとき、初めての子なこともあって心配になっちゃって「朝食に時間がかかるんです」って相談したのを覚えています。親としては心配だし、そんなちょっとしたことで聞きやすい雰囲気なので。富山 龍ヶ崎は支援センターがたくさんあって助かります。私はさんさん館以外だと、保育園の中にある支援センターに行くこともありません。そこでも保育士さんとよくお話ししています。

菅谷 保育園の中に支援センターがあるから、





安心して相談ができるんです。あと龍ヶ崎には体育館やプールがあるので、子どもが三歳になったらプールに連れていこうと思っています。

福永 龍ヶ崎は公園や遊び場が多いよね。さんさん館の隣にあるたつのこやまも、大型遊具ができてから家族でよく遊びに行くようになりました。それから子育て世帯を対象にした住宅支援制度があるのも、よいところですね。

(※1 若者・子育て世代住宅取得補助)

——教育環境についてはどのように思っていますか？

菅谷 私立幼稚園と認定こども園が結構あるので、選べると思います。幼稚園に入ると市から補助金が出るのもいいですよ。

(※2 私立幼稚園就園奨励費補助金)

——ちなみに、龍ヶ崎市内でおすすめの場所はありますか？

富山 たつのこやま近くのパン屋さんかな。コーヒーと麦茶がサービスでいただけるのと、イトインのスペースがあって、子連れでも入りやすいんです。

鈴木 お庭もあるから子どもを遊ばせられるよね。

菅谷 アレルギー表示がしてあったり、子ども向けのパンもあつて可愛いんです。カメの形のメロンパン「カメロン」は、少し大きくなった子にいい

かも。

福永 私たちはまだ子どもがみんな小さいので、お店に行くことはあまりないんですが、お弁当を持ち寄ってさんさん館に集ったりして楽しんでいます。

鈴木 車で公園に集まることも多いので、龍ヶ崎市森林公園とか若柴公園によく行きますね。水道やトイレ、芝生があるので助かります。

——龍ヶ崎での子育てを考えている方たちに、龍ヶ崎の好きなところを教えてください。

福永 子育て環境がとてもしっかりしています。自然が豊かで、子どもが多い。ママ友も作りやすいので、みんなで一緒に子育てできますよ。

菅谷 さんさん館のような、こんな大きな支援センターってあまりないと思うし、親子向けのイベントが多いので、一緒に勉強したり楽しめるところが気に入っています。

富山 小さな子どもたちが参加できる「こどもまつり」は、毎年みんなで楽しみにしているものね。

鈴木 イベントはもちろん、子育て世帯の助けになる制度も多いのは、いいですね。

(※1 市内に初めて住宅を取得した若者・子育て世代の方を対象とした住宅取得補助制度(最大二十万円。各種条件あり))

(※2 子どもが私立幼稚園に通う保護者の市民税所得割額に応じて保育料等の一部を補助する制度(各種条件あり))



右から 福永 明子さん、鈴木 朋子さん、富山 理恵さん、菅谷 聡美さん

さんさん館子育て支援センター

住所…龍ヶ崎市中里二一ー一

電話…〇二九七・六二一〇二三



パパに聞いた 子育て

おすすめスポット

家族が暮らしやすい龍ヶ崎市。週末には子育て中のパパが子どもたちを連れて、市内のあちこちで一緒に遊んでいる風景がよく見られます。そこで龍ヶ崎市内に住むパパたちに「子育ておすすめスポット」を伺ったところ、パパならではのリアルな声が集まりました。子育て世代の交流の場でありイベントを通して子どもの感性を伸ばす場として人気の「市民交流プラザ」や、龍ヶ崎市民自慢の大型公園の数々。周辺のショッピングモールに車で行ったり、電車で都心まで気軽に出かけられるパパも多いようです。

仲間のできる スポーツクラブ

「とにかく仲良くなっていきたい！」
幼児や小学生、中学生たちが真剣にスポーツをしている場所は、龍ヶ崎市にある流通経済大学龍ヶ崎キャンパス。大学生の指導で、子どもたちが体の動かし方を楽しく学んでいる「クラブ・ドラゴンズ」の活動風景です。クラブ・ドラゴンズはtootooの支援を受ける総合型地域スポーツクラブであり、流通経済大学の充実したスポーツ施設を使うことができるため、環境も抜群。レベルの高い指導を手軽に受けることができる「場所」なのです。各種プログラムの中から、園児から中学生までを対象にした陸上と体操を見学・取材し、子どもたちと指導者、そして保護者から生の声を伺ったところ、クラブ・ドラゴンズの目的は「いい成績を残す」ではなく、「楽しむこと」「仲良くなること」だと、みんなが口を揃えて話してくれました。

●市民交流プラザ

森の中にある隠れ家のような雰囲気施設の「子どもたちに、様々な体験をしてもらいたいので、そのような施設やイベントがあれば嬉しい」(三七歳)というパパにおすすめなのが、こで行われているワークショップ。龍ヶ崎のいいところを見つめる「仕事の龍人(たっじん)講座」や科学実験講座など、様々な体験をすることができます。



市民交流プラザ
「仕事の龍人(たっじん)講座」の様子。

●大型ショッピングモール

龍ヶ崎市の周辺、つくば市や千葉県柏市、印西市などにはショッピングモールがたくさんあります。どのモールにも車で三十分〜四十分ほどとアクセス良好。「子どもの遊び場があるし、大人もショッピングでストレス解消！」(三五歳)「雨でも子どもを遊ばせることができるので、重宝しています」(二六歳)と、お気に入りの施設があるパパは多いよう。

●たつのこやま

龍ヶ岡公園にある標高四一mの「たつのこやま」。登ると龍ヶ崎市内を一望できます。公園には大型すべり台や幼児向け遊具、広い芝生も。広さと雰囲気が人気の理由。「パパ友が作れそう」(三五歳)と交流の場としても期待できそうです。

●近所の公園

龍ヶ崎市の市民一人あたりの公園面積が茨城県南地域でナンバーワン！「若柴公園や龍ヶ岡公園は敷地が広いので、ボール遊びを満喫できるところが気に入っています」(三五歳)というパパや「アスレチックのような遊具がある公園によく行きますね。森林公園は阿見町にあるアウトレットなどへの途中なので寄り道しやすいです」(三六歳)など、公園はパパに大人気です。



龍ヶ崎市森林公園



クラブ・ドラゴンズは、大学トップレベルのスポーツ施設がある流通経済大学を拠点に、子どもから大人まで、個人に合ったレベルで様々な種目のスポーツを身近に楽しむことができる龍ヶ崎市のスポーツクラブ。取材した日には新体操も行われていました。初心者から選抜クラスまで各レベルに応じた内容で、特に選抜クラスの華やかな舞はつつい見とれてしまうほどでした。



10

9

この日はクラブ・ドラゴンズ陸上教室の活動日。流通経済大学の陸上グラウンドに三十名ほどの小・中学生たちが集まってきました。コーチのもとに集まり、ダッシュや腿上げなど基礎トレーニングを一時間ほど行った後、残りの一時間で種目別に分かれての練習を行います。部活のような厳しい指導や、子どもたちのつらそうな表情が見られることはありません。そこにいる全員が無理なく、でも真剣に取り組んでいるのがわかります。

実際に陸上教室に通っている子どもたちに話を聞いてみました。まずは走り幅跳びが専門の齋藤晴さんと平岡希美さん(共に小学校六年生)。四年生でクラブ・ドラゴンズに入会し、ずっと陸上を続けています。「正しい走り方を教えてもらえるので走るのが速くなったし、幅跳びの記録も伸びました」(齋藤くん)、「私も走る姿勢を意識するようになりました。目標は大会で四m飛べるようになることです」(平岡さん)。自分で目標や練習を設定することもまた、クラブ・ドラゴンズの方針です。

中学校でも陸上部に入っているという、仲村萌々子さんと西田愛佳さん(共に中学校三年生)。仲村さんは一〇〇m、二〇〇m、四〇〇mリレーといった短距離走の専門。ジャベリックスロー(小・中学生用の槍投げ競技)をやっている西田さんは、槍投げでインターハイ出場を目指しています。「友達に誘われて体験で参加したら楽しかったので



幼児向けの体操教室の様子。

陸上教室、ジャベリックスローの様子。

入りました。違う中学校の友達が増えたことが嬉しいですよ」と仲村さん。選手として本格的にジャベリックスローに励んでいる西田さんは、「根性がついたなって思います。自分で自分を成長させたい人に勧めたいです」と自分自身を振り返りました。

コーチたちはどのような考えで子どもたちに指導を行っているのでしょうか。流通経済大学陸上部コーチであり、クラブ・ドラゴンズのマネージャーも兼任している三洲和也さんは、「結果を出すことがすべてではありません」と話します。「子どもにいきなり結果を求めてしまうと苦痛になってしまいます。ここでは陸上競技を楽しんでもらうことが第一。チームとしては全国は目指さないけれど、もつと上を目指したいという個人の要望にはきちんと応えられるようにしたいんですよ」。クラブ・ドラゴンズに通っているのは、陸上選手になりたい子ばかりではありません。サッカーをやっているけれど走り方をしっかり教わりたいという子や、走るのが遅いので速くなりたくて来たという子も。「体を動かすことが好きになってくれると、僕たちもやりがいを感じますね。伸び盛りの子どもたちなので、記録が伸びたりいい表情で練習していると、よかったなと思います」とコーチの菅原さん。シニア層にもウォーキングなどの指導をしている三洲さんと菅原さん。「子どもから高齢者まですべての年齢の人が楽しめるスポーツクラブでありたいですし、いつ

かそんな大会が龍ヶ崎で行えたらいいなと思っています」という夢を話してくれました。

一方、流通経済大学のアリーナでは、幼児向けの体操教室が行われていました。裸足になって大玉転がしをしたり、先生に支えられながら跳び箱を跳んだり。イキイキとした表情で、小さくても体操を頑張っています。二人のお子さんが体操教室を楽しんでいる様子を見学していたのは、春田さんご夫婦。「息子はいつも早く教室に行きたい、先生たちに会いたいわって思っているみたい」と妻の真弓さん。クラブ・ドラゴンズでの指導は体育教員やスポーツ指導者を目指すスポーツ健康科学部の学生たちにとっても貴重な機会。子どもたちに運動の方法を教えることは、大学生にとっても良い学びの場になるのです。「ここではかの親御さんと顔見知りになることもしょつちゅうだよな」「ママ友つながりでパパ友もできたし」という声も聞けました。クラブ・ドラゴンズの輪が龍ヶ崎いっばいに広がる日は、そう遠くはなさそうです。

総合型地域スポーツクラブ

特定非営利活動法人クラブ・ドラゴンズ

住所…龍ヶ崎市平畑二二〇

(流通経済大学内)

電話…〇八〇・七〇〇五・九九四六

E d : <http://www2.rku.ac.jp/dradra/>



チャレンジし続けて 見えてくる世界

Jリーグ柏レイソルのトップチームに所属し、レギュラーとして大活躍している中山雄太選手。龍ヶ崎市に生まれ育ち、龍ヶ崎でサッカーに出会いました。高い技術が評価され、中学校三年生のときに柏レイソルのユースに入団。十八歳でトップチームに昇格した注目の選手です。U-16日本代表に選ばれて以来、年代別日本代表にも選ばれ続けています。そんな中山選手に、龍ヶ崎のこと、サッカーを通して考えたいろいろなことを伺いました。二十歳とは思えないほど落ち着いている中山選手ですが、一体どんな子どもだったのでしょうか。

11

12

なかやま ゆうた
中山 雄太

Jリーガー

龍ヶ崎市 出身

市立北文間小学校1年生時、地元サッカースポーツ少年団で本格的にサッカーを始め、市立愛宕中学校サッカー部、柏レイソルU-15、U-18を経て柏レイソルで2015年J1デビュー。2017年、U-20日本代表の一員として、U-20W杯で全試合フル出場。2020年東京オリンピックの代表を目指す。



小学校時代の中山選手。



少年サッカーでも使用される「たつのこフィールド」。

生まれも育ちも龍ヶ崎の中山選手。龍ヶ崎でどんな子ども時代を過ごしたのでしょうか。「室内でゲームというよりも、外で遊び回るアクティブなタイプの子でもでした。学校の校庭でもサッカーをしていたし、公民館で卓球して遊んだ思い出もあります。早いうちから芝生感覚を知ることができたので、ふるさとふれあい公園やたつのこフィールドでサッカーをしていたことは、今の自分につながっているかもしれません」

姉と兄がサッカーをしていた影響で、四歳で龍ヶ崎市のサッカー少年団に入ります。小学校、中学校ではキャプテン。「王様みたいに振る舞ってました」と自分でも苦笑いするほど、絶対的なキャプテンだったそう。「負けず嫌いで、試合に負けるとイライラして。それでもついてきてくれたチームメイトは優しかったなって思います。でも中学校三年生でレイソルに入って、変わりました。プロにより近い環境に入ったことで、自分なんてまだまだということを感じ知らされた。昔よりはずっと穏やかな性格になりましたし、常に冷静でいることで自分自身をコントロールしやすくなった。レイソルに入って一番変わったのは技術よりもメンタルだと思っています。順風満帆に見える中山選手ですが、レイソルに入った年に足首を骨折し長くブレーでできない苦しい時期を経験しました。「不安だらけで、もうサッカーをやめようって思ったぐらい。今はちょっとした悩みなら、『あのときに比べたら』って思えるので、乗り越えやすくなったなと思います」

龍ヶ崎の子どもたちにメッセージをお願いしますと、「後悔がないようにチャレンジしてほしい」という言葉をくれました。「僕も何かやるときに面倒くさいって思っちゃうこともありますし、やらなきゃいけないことを後回しにしそうになることもある。でも後悔なく生きたいので、やるべきことをちゃんとやるようにしています。やらない後悔よりやる後悔のほうがいいし、やってみて気づくこともありますから。失敗すると気持ちはいったん沈むんですけど、自分がもう一つ高みに行くための、かかっている時間なんだって捉える。すべて自分に必要なことだから起きたことなんだと常に考えるようにしています」

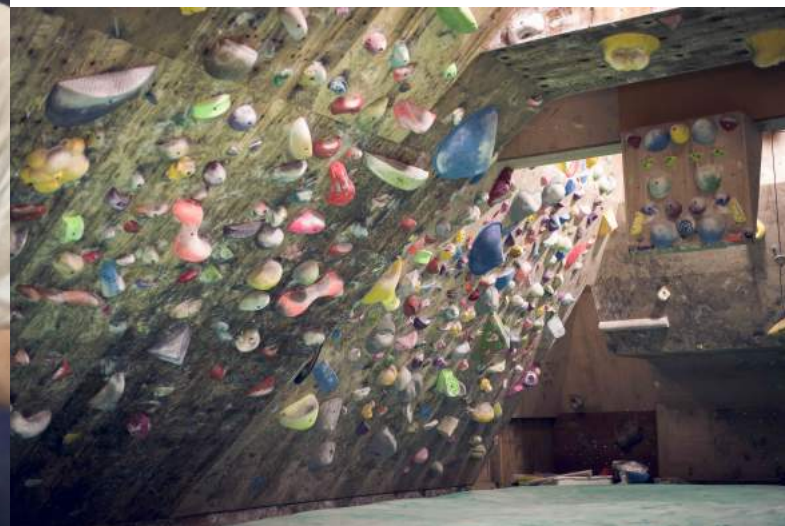
U-16に選出されて以降、年代別日本代表に召集され続けている中山選手。二〇二〇年の東京オリンピックに近いところにいます。「チームの目標であるリーグ優勝はもちろん、個人的にはオリンピックやA代表という目標は常に掲げていきたい。特に今年はより代表に対して気持ちが強いので、それを叶えるために頑張っていきたいですね。サッカーでも、僕は昔からまずチャレンジ。チャレンジさせてもらえる若いうちに代表に入って、たくさんアクションを起こしたいです」



トップアスリートを育てた 誰とも比べない子育て

龍ヶ崎市が市をあげて行なっている子育て応援プロジェクト「子育てたつこのアクション」のスペシャルサポーターに就任した、龍ヶ崎市出身のプロフリークライマー・野口啓代さん。二〇一七年三月に行われたリードクライミングの日本選手権では通算六回目の優勝。さらにボルダリングの世界においてはワールドカップで四度も年間優勝を獲得した、世界トップクラスのスポーツクライミング選手です。そんな啓代さんが現在もトレーニングを行うのは、龍ヶ崎の実家にある巨大なプライベートルーアル。啓代さん、そしてご両親の健司さんと信子さんに、クライマー少女がどのように龍ヶ崎で育ったのかを伺いました。

13



どんどん強くなっていく過程で、牛舎に作ったボルダリングの壁が急角度になっていきました。

14

野口啓代 父
けんじ
健司さん

野口啓代 母
のぶこ
信子さん





のぐち あきよ
野口 啓代

フリークライマー

龍ヶ崎市 出身

1989年生まれ。龍ヶ崎ふるさと大使。小学校5年生の夏にグアムでフリークライミングに出会う。2005年、世界選手権(リード)で3位入賞。2008年、ワールドカップモンタルパン大会(ボルダリング)で日本人女性として初優勝。2009、2010、2014、2015年、ワールドカップ年間総合優勝。ボルダリング、リードの両種目で世界選手権優勝を目指し、世界各地で開催されているワールドカップに出場中。

酪農家として牧場を営んでいた野口家。広々とした敷地内には牛舎やサイロ、大きな倉庫などがあり、子どもの頃の啓代さんは牧場で遊ぶのが何よりの楽しみだったそう。牛舎の屋根の上に登ったり、牛たちの脚の間をくぐり抜けながら走り回ったりと、やんちゃな幼少時を過ごしました。「私たちも忙しかったので、目の届く範囲で遊ばせておくという感じでしたね。危ないからそれやっちゃダメとか、一切言わなかった。ちょっとぐらい怪我しても仕方ないかという感覚で育ててきましたから、おてんば娘に育ったんだと思います」と当時を振り返る健司さん。啓代さんも「弟や妹と一緒に牧場の中で遊ぶのが大好きでした。屋根裏に秘密基地を作ったりもして。敷地内は遊び尽くしましたね」と思い出し笑い。体を動かすのが好きな、元気な子どもだったそうです。

啓代さんが小学校五年生のとき、家族旅行先のグアムでクライミングに出会います。その後、啓代さんはつくばにあるジムに通い始めました。小学校六年生のときに初めて出場した全日本ユース選手権で、中学生を押しつけていきなりの初優勝という好成績を収めます。

「小さい大会から出場し始めて、ユースの世界大会、シニアの世界大会と段階を踏んでいきました。高校生のときに初めて出た世界選手権で三位になったことは、大きなターニングポイントだったと思います。そのときに感じたのは、

目標に向かってトレーニングをして、実力を本番で発揮する。努力した結果が出るという行程が私は好きなんだなということ。狙っていない大会でラッキーな成績が出てもうれしくない。頑張つてよかったと思うことが好きなんです」(啓代さん)

健司さんと信子さんは、子どもに対して上から物を言うようなことはしません。啓代さんが悩んでいるときにそっと力になる。そんな子育てをしてきました。

「啓代とはべったりしているわけじゃないし、大会が終わった後『お疲れさま』ってメッセージを送るぐらい。でも空港に車で迎えに行くことは当たり前。どれも私たちにとっては普通のことなんです」(健司さん)

「よそはよそ、うちはずち。酪農をやっていた頃は休みがなくて、あまり遊びに連れて行つてあげられなかった。寂しい思いをさせていたかもしれないですね」(信子さん)

と、ご両親が話すと、「気にしていなかったよ」と啓代さん。

「両親は誰かと比べるということをしてはいません。テストの順位で怒られたことはないし、クライミングについても同じ。ありがたいです」そんな啓代さんが集中してトレーニングをしたいときに訪れるのは、龍ヶ崎の実家。健司さんが使わなくなった牛舎の壁に作ってくれた巨大なプライベートウォールを、心ゆくまで登る

のだそう。「こういう環境で育ったから木登りや高いところも好きになった。私の性格や考え方はこの家で育まれたんだと思います」

信子さんは母として、市の施設やサービスで子どもたちいろいろな経験をさせてほしいと話してくれました。

「龍ヶ崎市の広報誌などを見ると、今はこういう施設があるんだと知ることが多いんです。これが当時あれば、子どもたちにもっといろんな体験をさせてあげられたかも。子育て中って『一人で育てなきゃいけない』と思い込んじゃうこともあるけれど、こういう施設に子どもを連れて出かけてみたら、お友達ができ、みんなも同じことに悩んでるんだってことがわかる。気持ちに余裕が生まれると思います」

二〇二〇年の東京オリンピックから、スポーツクライミングは追加種目に加わります。大舞台での啓代さんの活躍は、龍ヶ崎の子どもたちにもきつと夢を与えてくれるでしょう。

「龍ヶ崎の子どもたちには、好きなことを最後までやりとげる大切さを知ってほしいですね。ゲームでもスポーツでも勉強でも何でもいから『やり切ったな』と思うところまでやってみてほしい。納得いくまでやれば、また違うところに進んでもきつと大丈夫だと思いますよ」(啓代さん)

本はもちろん おはなし会は大人気

図書館には、本の貸し出し以外にも大切な役割があります。龍ヶ崎市立中央図書館で定期的に行われているイベント「おはなし会」。図書館に勤める司書の方や市内のボランティアの方たちが、〇歳から高校生までを対象に、本の読み聞かせのほかストーリーテリング、紙芝居、手遊びなどを行なっています。読書とは異なる体験である読み聞かせ、一体どんな学びを得られるのでしょうか。子どもたちに読み聞かせをしているボランティアの三人にお話を伺いました。

17

奥まで見渡せる明るい館内。龍ヶ崎市立中央図書館は、本好きの心をくすぐる工夫に満ちた図書館です。貸し出し以外に司書の方たちが力を入れているのが、テーマに沿った本を集めた展示と読み聞かせ。展示コーナーでは、いたばしポロニヤ子ども絵本館と連携し、本の世界を広げるような企画を積極的にを行っています。たとえば外国語絵本の展示。いろいろな国で発行されている五味太郎さんの絵本『きんぎょがにげた』を並べたところ、国ごとにインクの色や紙質、本の開き方が違うといった発見があり、大人からも好評でした。そして主に子どもたちをターゲットとした読み聞かせ「おはなし会」。図書館なのに、読むだけではなく、聞くことも重視しているのはなぜなのでしょう。「おはなし会」を積極的に開いている目的について探ってきました。

ここ龍ヶ崎市立中央図書館のおはなし会は、主に子ども向け。〇〜四歳ぐらいまでの未就園児を対象にした「こぐまちゃんのおはなし会」。そして三〜六歳、五〜八歳、小学生、小学校高学年〜高校生までのYA（ヤングアダルト）と、年齢別に分かれています。それぞれ本の読み聞かせはもちろん、本を使わない素話（すばなし）の形式で聞かせるストーリーテリング（覚えたお話を見ないで語ること）、わらべ歌に紙芝居、手遊び、ペープサート（紙人形劇）などが行われることもあります。読み聞かせを行うのは、市の募集に応募し、半年間の練習期間を経てからデ

ビューした、熱意あるボランティアのみなさん。キャリア十七年の指宿実紀子さん、男性ボランティア倉上茂さん、この中で一番のベテラン桜井直子さんは、読み聞かせを通してどんなことを感じ取っているのでしょうか。読み聞かせをする立場からお話を伺いました。

「読み聞かせをすると、こちらも元気になるますね。興味津々という顔で、食いつくように聞してくれる。特にストーリーテリングは、子どもたちと目を合わせながら話すことができるので、楽しんでいるのがよくわかります。読み聞かせをやっていると、よかったなと思う瞬間です」と指宿さんが話すと、ボランティアを始めて三年の倉上さんも同意します。

「小さなお子さんと触れ合うと、こちらがエネルギーをいただけるんですよ。挨拶するときも読み聞かせの最中も、目を見て笑顔を交わすことで、人間同士のいい関係を作れるんじゃないかなと思っています」

桜井さんは、龍ヶ崎市で生まれた赤ちゃんに二冊の本をプレゼントする「ブックスタート」にも関わっています。「ブックスタートでの読み聞かせは三〜四か月児健診に来た赤ちゃんに行なっているのですが、お父さんが一緒に参加すること多いんです。読み聞かせをしているときに赤ちゃんがニコニコしているのを見て、『こんなに小さくても楽しいんだ』とわかってくれます。お父さんにとって発見になることが私もうれしんで

す」と話すと、指宿さんが読み聞かせのいいところをさらに教えてくれました。

「テレビもついていない静かな空間でお話を聞く経験はとても豊か。家で赤ちゃんと読み聞かせるときは、絵本はおもちゃだと考えてみて。その通りに読むことよりも、コミュニケーションの材料として使えばいいと思いますよ」

読み聞かせは、親子や地域のひととのコミュニケーション。高齢者など大人が参加できるおはなし会も時折企画されるそうなので、図書館からのインフォメーションを積極的に覗いてみてください。

龍ヶ崎市立中央図書館

住所：龍ヶ崎市駒馬町二六三〇

電話：〇二九七・六四・二二〇一

HP：http://tsyo.city.ryugasaki.ibaraki.jp

☎ : @lib_ryu



おはなし
ボランティア

右から

桜井 直子さん

指宿 実紀子さん

倉上 茂さん

—



ここは、 街の保健室

乳幼児から高齢者まで、そして妊婦さんとお腹にいる赤ちゃんも。すべての龍ヶ崎市民の健康づくりのお手伝いをしているのが龍ヶ崎市保健センターです。二〇一六年度に保健センター内に創設されたのが「子育て世代包括支援センター」。ちょっと難しい名前ですが、出産や子育てに関することならなんでも相談できる場所。どのような人たちがいて、どんなことを相談できるのでしょうか。スタッフである保健師さんにお会いしてお話を伺ったところ、みなさんとても頼りになる優しい人たち。誰にも言えないことや、ちょっとしたことでも、気軽に聞いてOK。そんな雰囲気がありました。

19

保健センター内に設立された「子育て世代包括支援センター」に勤務する、母子保健担当の保健師、松本春生さん、小島佐知子さん、宮本春美さん。それぞれが得意分野を持ち、時にスタッフみんなで協力し合いながら、妊婦さんやママたちの不安を取り除くための業務に日々取り組んでいます。

「乳幼児健診や、赤ちゃん訪問、健康相談。電話でのご相談も受けています」という、三人の中心で一番、テランの保健師・松本さん。同じく乳幼児健診や相談を受けるほか、「保健センターで行なっている離乳食教室も担当しています」という十四年目の小島さん。そして、「健診業務に携わるほか、お子さんを授かったご夫婦がママ・パパになる準備をするためのプレ・ママ教室、プレ・パパ教室に関わっています」という宮本さん。新人の宮本さんは助産師の資格も持っているため、すでにみなから頼られる存在です。現在、龍ヶ崎市の保健センターにいる保健師は十二名、そのうち常勤の母子保健担当は七名。そのほかに母子保健コーディネーター、栄養士、助産師、看護師、保育士が勤務しています。松本さんたちの主な業務は、赤ちゃんが生まれた家庭に保健師と助産師が訪問する赤ちゃん訪問や（〇〜四か月未満の赤ちゃんがいる家庭）、定期的な乳幼児健診、プレ・ママ教室などの各種教室指導に、育児や発達についての相談を受けることなど様々。妊娠期から子育て期にわたる

切れない支援“が、子育て世代包括支援センターのモットーなのです。

「子育て世代包括支援センターの立ち上げによって、母子健康手帳を発行する際に妊婦さんにじっくりとお話を伺うようになりました。いきなり何でも話してほしいなど無理強いはいませんが、家族環境について聞ける貴重な機会。周囲の家族の手助けが得られない方、未入籍の方などいろいろとあるので、どうしたらいいかを一緒に考えていきます。そのほか出産に前向きになれなかったり、心が不安定になっている方にも、『不安なことがあったらいつでも相談してくださいね』と伝えています」と、松本さん。また、妊娠八〜十か月の妊婦さんに連絡を取り、すべての妊婦さんの状況把握に努めています。

「心配がないと思っている方にも働きかけておくことで、『相談できる場所があったんだ』と思い出してもらえます。連絡する際には、『プレ・ママ教室、プレ・パパ教室を紹介しますね。教室に行くと、そこで友達ができたり、何かしらの学びがありますから。今はネットで情報は得られますが、実際に体験しておくことで出産や育児への自信がつくと思うんです』（小島さん）そのプレ・ママ教室、プレ・パパ教室は大好評。プレ・ママ教室は、妊娠中の生活や食事、出産前の準備について学ぶ全三回の講座です。そしてパパが参加するプレ・パパ教室は、妊婦さんの生活を疑似体験し、夫婦や家族がお互いを知る

20

ことが目標。こちらは全一回ながら、ママにも評判がいいのだそう。そのほか、三十回まで使える妊産婦さんへのタクシー料金助成や、産後健診の助成など、助けになる制度が龍ヶ崎市にはたくさんあります。保健師に相談することで初めて知ることも多いようです。「子育てって、答えがないからみんな悩むんですよ。一緒に考えていける、応援団のような存在でありたい。少しでもママが元気になることができることが、私たちの何よりの喜びです」（松本さん）、「世の中には育児の情報が溢れているけど、私たち保健師は根拠に基づく情報をお伝えするようにしています。一緒に話していく中で、お母さんが決めることを見守りたいですね」（小島さん）、「保健センターって、地域の保健室みたいな存在なのかと思います。保健室ってちょっと具合が悪くても行くし、ただ話を聞いてもらいたいときにも行きますよね。一番に頼りたくなる場所でありたいですね」（宮本さん）

龍ヶ崎市子育て世代包括支援センター

（龍ヶ崎市保健センター内）

住所：龍ヶ崎市駒馬町二八五五

電話：〇二九七・六四・一一一

内線六三二・六三二

保健師

右から

小島 佐知子

松本 春生

宮本 春美

—





龍ヶ崎での 子育てのコツ お教えします！

子育てを頑張りすぎて悩んでしまう保護者をサポートしてくれる人がいます。その名も子育て支援コンシェルジュ（以下、コンシェルジュ）。

一人一人の悩みを聞き、その人に合った子育てサービスの活用方法を教えてくれます。幼稚園教諭、保育士として働いた経験を活かしながらコンシェルジュとして活動する、廣田由佳里さんにお話を伺いました。



子育てたつのこアクション・インフォメーション 01

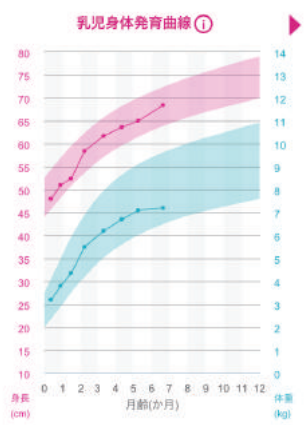
子育ての頼れる相棒 「たつのこ たつち」

「たつのこ たつち」とは、龍ヶ崎市で二〇一六年十二月から導入された電子母子手帳サービス。成長記録、予防接種、街の育児情報など、妊娠から出産、育児までをフルサポートする、地域とつながる、安心の子育て支援アプリです。アプリをスマートフォンなどにダウンロードするだけで、無料で利用できます。

コンシェルジュとして大忙しの廣田さん。こども課の窓口や電話で相談を受けているほか、定期的にさんさん館子育て支援センター（第一・三水曜十～十五時）と、龍ヶ崎市駅前こどもステーション内にある子育て支援センター（佐賀駅前。第四水曜十～十二時）に出張し、保護者の方からの相談を聞いています。「そのほかには、子育てに悩みを抱えているご家庭を訪問したりして、育児のアドバイスをしていますね。さんさん館などにも出かけておらず、お子さんと家に閉じこもりがちなお母さんにお会いして、各支援センターのイベントカレンダーをお渡ししたり。お母さん同士のつながりを作るお手伝いをしたいと思っています」

コンシェルジュの廣田さんが目を向けているのは、ママやパパといった保護者の方たち。特に現在は、働きに出るための保育サービスの情報提供が多く求められています。「今すぐお仕事に復帰しなければいけないという方には、NPO法人のサービスをご紹介します。お子さんがファミリーサポートセンターという互助組織を利用できる年齢であれば、そちらをご案内することも多いですね。一時保育なども利用していただき、申請しながら保育園に入れるタイミングを待っていただくようにしています。『初めての子育てでどうしたらいいかわからない』という声も多いですね。そういうときは、自らの子育ての経験からアドバイスさせていただく

龍ヶ崎市の母子手帳がアプリに！誰でも使いやすいと評判の「たつのこ たつち」は、たくさん機能が備わっています。子どもの成長記録に写真を登録したり、グラフで確認するこ



とができます。忘れてしまいがちな予防接種の日程を管理し、アラートで知らせてくれるスケジュール機能もあります。記録したデータは家族で共有できるので、離れて暮らす家族も赤ちゃんの成長を実感できます。ママが知りたい育児や地域のお役立ち情報も届く、頼りになるアプリです。

アプリストアから

電子母子手帳 検索

QRコードから

サービスURL
<https://www.mchh.jp/>

お問い合わせ
龍ヶ崎市 保健センター
電話：0297-64-1039
受付時間：平日 8:30～17:15

こともありますよ。私もずっと龍ヶ崎市で子育てをしている母親なので、同じ立場でお話しをします」

そんな廣田さんは千葉県生まれ。二十歳のときに家族と龍ヶ崎市に引っ越してきました。龍ヶ崎市や周辺で幼稚園教諭、保育士として働き、そして龍ヶ崎で結婚して、自分の家族を持ちました。「独身の頃から、『子育てするなら龍ヶ崎がいいな』と思っていましたね。当時の龍ヶ崎市はまだ子育て環境日本一を謳っていませんでしたが、『こんな自然豊かな場所ですべてできたらいいだろうな』と感じていたので、龍ヶ崎の小学生って田植えの経験ができるんですね。それを知って私もうらやましくなったり笑。我が家の子どもたちも、自然の恵みを感じながらのびのび育っていると思います」

廣田さんのコンシェルジュとしての目下の目標は「出張先をもっと増やして相談の場を広げたい」。これからはあちらこちらで廣田さんの笑顔が見られそうです。

子育て支援コンシェルジュ

廣田 由佳里

龍ヶ崎市子育て支援
コンシェルジュ
<https://ja-jp.facebook.com/ryugasaki.kosodatesien/>



県内初！駅から保育園への送迎サービス

二〇一六年六月に佐賀駅前（東口）にオープンした「龍ヶ崎市駅前こどもステーション」では、忙しいママ・パパに代わり、ステーションでお預かりしたお子さんを各保育施設へ送迎するサービスを県内で初めて実施しています。

日中は、イベントや各種教室で人気の「さんさん館子育て支援センター」と同様にお子さんを遊ばせたり、ママ・パパ同士の交流の場としてご利用いただけます。



地域で家族のように 見守ります

慣れてきてもやっぱり心配な登下校。龍ヶ崎市の小学校には、子どもたちの登下校に付き添ってくれる「スクールサポーター」と呼ばれる地域ボランティアの方々がいます。子どもたちからは「おじさん」と呼ばれ親しまれているサポーターのみなさんは、仕事を引退し第二の人生を歩んでいる高齢者の方々が中心。地域の子どもたちを、自分たちで守る。子どもたちにとって、地域の大人と仲良くなれるのはきつとうれしいことに違いありません。サポーターのみなさんは、どんなことにやりがいを感じているのでしょうか。

23

24

スクールサポーター

左から

池野辺 和男さん

生井 利雄さん

飯塚 雅男さん

松鹿 平さん

—



毎日の付き添いの様子。



——スクールサポーターに登録したきっかけは？

生井 二〇〇六年のことかな、校長先生から、子どもたちの登下校のサポートをする制度を手伝ってほしいって誘われて、孫も学校に通っていたので始めました。

池野辺 ニュースで子どもが事件や事故に巻き込まれたなんて聞くたびに、悲しい思いをしていて、子どもたちのために何かしたいって思ったんです。

松鹿 私の孫が小学校に入学して、登下校が心配だなと思って始めました。

飯塚 私もスクールサポーター制度が始まったときから参加しているので、十五年。地域へ貢献できるなと思っています。

—— 毎日のように活動されているのですか？

生井 学区ごとに三つの班に分かれて、朝と帰りの時間に合わせて集団登校（下校）に付き添っています。家の角で待っていて、一人ずつ合流していくんです。

池野辺 付き添いは朝のほうが怖いですね。

生井 子どもたちには、横断歩道を渡る時には、常に「車が止まるのを確認するまで渡っちゃだめだよ」と話しています。おかげさまで、スクールサポーターを始めてから登下校中の子ども事故はゼロなんです。

——子どもたちとの関わりは？

池野辺 友達みたいな感覚なのかな。中学校の運動会に行ったら、卒業生の子どもたちが「おじさんだ！」って声をかけてくれたことがあります。お祭りとかでも挨拶してくれます。

飯塚 私たちも子どもたちの顔を覚えていて、成長を見るのがうれいんですよ。小さかった子があんなに大きくなったんだって。

生井 子どもたちは歩くのが速いので、私たちは自転車なんです。おかげで足腰が丈夫になりました（笑）。

——ちなみに龍ヶ崎市に長く住んでいるみなさんにとって、龍ヶ崎のいいところは？

生井 いい人が多いかな。

池野辺 のんびりしていて暮らしやすい。自分たちの地域は自分たちで守るっていう意識があるし、新しく入ってきた人も気持ちよく受け入れるから、すぐに溶け込めますよ。

松鹿 私がお米を作っているというのもあるけれど、龍ヶ崎のお米はおいしいです。

飯塚 子どもたちが元気な顔に会えるのが楽しみです。明日の朝も、元気な顔に会えるのが楽しみです。

教育は人づくり たくさん経験の場を

子どもたちの発育に大きな意味を持つてくる、小学校や中学校。龍ヶ崎市の小・中学校ではどんな理念のもとに教育が行われているのでしょうか。現在の龍ヶ崎市教育委員会教育長である平塚和宏さんは、中学校の体育教師として教育者人生をスタートさせ、数々の小・中学校や教育施設で教員、教頭、校長の職を勤めてきた教育のスペシャリスト。「体育教師だったのでつい熱くなってしまうですよ」と苦笑いしながらも、いつも教育について考えていることがよくわかる優しい語り口です。少子化の時代にどんな教育をするべきか。今考えていることを伺いました。

25

平塚教育長は、「教育とは人づくり。その時代、状況に合った人づくりがなされているかどうかが大事です」と教育理念を語ります。「少子高齢化の中での人づくりは難しいです。私たちの世代は、きょうだいが三人四人は当たり前という時代でしたが、今は家庭に一人しか子どもがおらず、近所に同級生がいらないこともある。今の時代で考えられる人づくりを考えていく必要があるのです」

今を生きる龍ヶ崎の子どもたちのためどのようなプロジェクトを考えているのか伺いました。

「まずは小中一貫教育。子どもたちを取り巻く環境や課題を踏まえ、子どもたちに生きる力を身に付けさせていくためには、義務教育九年間の教育課程を編成し、小・中学校と地域社会が連携して系統的な学びを目指す龍ヶ崎版小中一貫教育「龍の子人づくり学習」を教育委員会として強力に推進していく必要があります。小中一貫教育のための施設整備や教職員の増員、資質・能力の向上など多くの課題はありますが、すべては人づくりのためにという目標のもと、新たな挑戦をしているところです」

人づくりのうえで念頭に置くべきことは、「年齢や発達段階に応じた適切な教育活動」だそう。「わかりやすいのは学校の遊具。子どもたちは遊びを通じて規範を覚えます。順番を待ったり、ブランチを何回漕いだら交代という

ルールを自分たちで作ることを、自然と覚えていくのです。遊具で規範を覚えるのが小学校低学年だとしたら、中学年ではサッカーやバスケットボールなどでグループ活動を覚えていく。高学年になったら自分で考えて自分で行動するようになる。これらのどの段階も欠けてはいけません」

昭和五十年代後半以降、ニュータウン開発により急速に発展した龍ヶ崎市。全国の人々が集まってきたことで生まれた多様性は、子どもにとっていい「体験」の場となります。「龍ヶ崎市には工業地帯も農村地域も、商店街もある。運動公園も充実しています。いろいろな文化が集まっているということは、子どもたちが何か体験したいと思ったときに、体験の選択肢が多いということ。私は、あらゆる教育活動で子どもたちが一番緊張して、成長するのは、職場体験だと思っています。学校を離れ、地域の大人と一緒に三日ほど活動する。職場体験を終えた子どもたちは顔つきが違いますよ。職場体験は子どもたちの自己理解、自己実現につながる大切な場所なのです。それにスポーツの大会も体験の一種。今年二十二年ぶりに市内の中学校陸上大会を復活させました。他校の選手と競い合い、互いを認め合う子どもたちの様子が見られて、やってよかったなと思いましたね。これからの体験の場を増やしていきたいですね」

26

龍ヶ崎市教育委員会教育長

平塚 和宏



バンドを通して演奏と チームワークを学ぶ

龍ヶ崎市文化会館文化事業の一つとして、小学校六年生と中学校三年生の子どもを対象に、夏休みの六日間に楽器（ベース、ギター、ドラム）を学ぶ講習会が行われている。夏休み後も月一回の練習を続け、秋の龍音祭でバンドとして演奏を披露する。楽器に触れるきっかけになるだけでなく、チームワークも学べる場所。子どもたちからは、「思ったより演奏できて楽しかった」「少しずつ上達してきた」という感想が。将来、龍ヶ崎からプロが誕生するかも!!



「バンドやろうよ講習会」の様子。
龍ヶ崎市音楽協会の方々を教えています。

親子で楽しめる イベント情報

龍ヶ崎市では、地元の新鮮な野菜が購入できるイベントが毎週のように開催されているほか、代々守られてきた伝統芸能「撞舞（つくまい）」など、家族で楽しめる行事がたくさんあります。龍ヶ崎の人たちが作り上げてきた文化を、お子さんにもぜひ教えてあげてはいかがでしょうか。龍ヶ崎を知ると、毎日の暮らしがもっと楽しくなる。龍ヶ崎に住んでいることを、思わず自慢したくなるはずです。

子育てたつこのアクション
Information

02



こどもまつり2017に参加した子どもたち。



たつこのマルシェの様子。

● たつこのマルシェ

毎月第二土曜の午前十時から午後一時まで、さんさん館子育て支援センター前で開催されているたつこのマルシェ。新鮮な野菜や物産品などを、生産者から直接購入できます。生産者と消費者、お互いの顔が見えて直接交流ができる場とあって、大人気です。親子で楽しめるワークショップが開催されることもあるので、要チェック。野菜の詰め放題は、子どもよりもママたちのほうが夢中になってしまいう人気イベント。そのほか毎回楽しい企画が用意されています。

● まいんバザール

上町・八坂神社前のにぎわい広場にて、毎月第一日曜の午前十時～午後二時に開催されているイベント。市内で作られた農産物や物産品が購入できるほか、ご当地グルメとして名高い龍ヶ崎コロッケも買えます。これまで三〇〇回近く開催されている、地元でも大人気の定番イベントです。広場にある「まいんステージ」では、市内の高校のブラスバンド部による演奏や大道芸、バンドのミニライブなど、毎回、様々な出演者によるパフォーマンスで子どもから大人まで楽しめる内容になっています。

● 撞舞（つくまい）

地上十四mの柱の上で繰り広げられる龍ヶ崎の夏の風物詩「撞舞」。国の選択無形民俗文化財であり、茨城県の無形民俗文化財にも指定されています。選ばれた二人の舞男が見せる妙技の数々は、圧巻の一言です。家族五人で会場に来ていた鴻巣さん一家は、龍ヶ崎の歴史の勉強をしていたお子さんから撞舞について聞かれて、会場に足を運んだそう。お父さんもまた、子どもの頃に親に連れてきてもらった思い出があるといいます。

約四五〇年以上続く龍ヶ崎の伝統芸能は、親から子へ、確実に受け継がれています。（毎年七月下旬の八坂神社祇園祭最終日・撞舞通り）



写真：撞舞の様子

4月

桜まつり：龍ヶ岡公園

市民ウォークラリー大会：たつこのフィールド

7月

親子でつくる給食献立コンクール

RYUとびあ音頭パレード：商店街大通り

八坂神社祇園祭：商店街大通り

撞舞：撞舞通り

8月

龍ぼん祭：龍ヶ崎市文化会館

歴史まつり：龍ヶ崎市歴史民俗資料館

市民防災フェア：小貝川市民運動公園

10月

市民スポーツ・レクリエーションまつり

たつこのアリーナ、たつこのフィールド

ふれ愛広場：龍ヶ崎市文化会館

環境フェア：クリーンプラザ・龍

秋の収穫祭：農業公園

11月

教育月間

薬師市龍ヶ崎商業祭りがっぺ市：商店街大通り

12月

中学校駅伝競走大会：たつこのフィールド、ほか

1月

龍ヶ崎とんび凧あげ大会：牛久沼水辺公園

年1回開催（時期未定）

こどもまつり：龍ヶ崎市文化会館

毎月第1日曜日

まいんバザール：にぎわい広場

毎月第2土曜日

たつこのマルシェ：さんさん館子育て支援センター前

毎月第3日曜日

日曜朝市やさい村：にぎわい広場

目指せ！

子育て環境日本一！！

子育て環境日本一を目指す龍ヶ崎市は、二〇一六年、よりよい子育て環境づくりにまち全体で取り組んでいくことを目的に「子育て応援都市」を宣言し、市民参加型の子育て応援プロジェクト「子育てたつのこアクション」を始動。市の子育て支援制度・サービスなどを紹介する情報サイト『子育てたつのこアクション』の開設や、龍ヶ崎市の小学生が監督・出演するPRムービー『ワクワク龍ヶ崎』の制作など、龍ヶ崎市の子育てしやすい環境を紹介しています。

子育てたつのこアクション
Information

03



龍ヶ崎市から世界へ！

龍ヶ崎市でのびのびと育つ子どもたちの愛称“たつのこ”。その“たつのこ先輩”代表として、龍ヶ崎市で生まれ育ち、現在はプロのフリークライマーとして世界で活躍する野口啓代さんを「子育てたつのこアクション」のスペシャルサポーターに任命。二〇一七年七月四日、龍ヶ崎市役所にて執り行われた任命式の後、龍ヶ崎市で子育てを頑張る人たちへの応援メッセージをいただきました。「龍ヶ崎市から世界へ！子どもの頃から育った環境であつたり、教育が大切だと思うので、私のように（笑）龍ヶ崎市から世界に飛び立つてほしい！」

“龍ヶ崎ふるさと大使”も務める野口さんには今後も、龍ヶ崎市が取り組む子育て応援活動をサポートいただきます。



情報サイト『子育てたつのこアクション』では、龍ヶ崎市の子育て支援制度・サービスの紹介や、子どもたちが楽しめる自然・公園などの子育て環境の情報、市民のみなさんの声、地域の子育て応援の声などをお届けしています。



また、子育ては家族ばかりではなく、地域全体で取り組むことが重要と考え、より一層市民を巻き込み子育て応援の輪をまち全体へ広げていくため、本プロジェクトに賛同いただける企業・団体・個人を「子育てたつのこアクション」サポーターとして、二〇一七年八月より募

茨城県龍ヶ崎市はこれまで「子育て環境日本一」を掲げてきました。そして二〇一六年新たに「子育て応援都市」を宣言しました。私自身も二人の子どもがいる父親ですが、龍ヶ崎は子育てにとってもいい環境だなと思う理由がたくさんあります。まずはなんといっても豊かな自然環境。龍ヶ崎森林公園は家族連れにも人気のスポットです。シートを敷いたりテントを建てることのできるのも、子どもたちを見守りながら家族でのんびりとした時間を過ごすことができます。私が市長になってから作ったたつのこやまの大型遊具も好評ですね。そのほか牛久沼乗馬クラブに飛行場などもありますから、釣りや乗馬体験、遊覧飛行なども家族で楽しめますよね。

二〇一六年にスタートした子育てを応援するプロジェクト「子育てたつのこアクション」も活用して、これからも「子どもを産み、育てるなら龍ヶ崎」と思ってもらえるようなまちづくりを進めていきます。

茨城県龍ヶ崎市長
中山一生

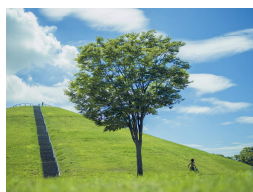
たつのこで

発行人
茨城県龍ヶ崎市市長公室 シティセールス課

発行元
茨城県龍ヶ崎市

ISSN 2433-4413
2017 Printed in Japan

Ryugasaki City
TATSUNOKOSODATE



表紙写真：龍ヶ岡公園たつのこやま

龍ヶ崎市子育て環境情報サイト

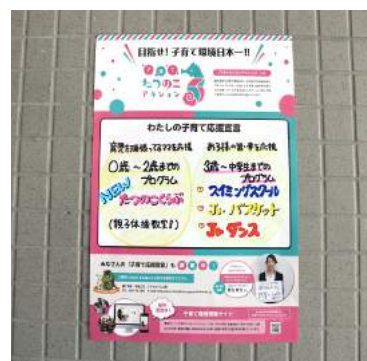
『子育てたつのこアクション』

<http://tatsunoko-action.jp/>

龍ヶ崎市PRムービー

『ワクワク龍ヶ崎』

https://youtube/1Qc_YDqTOx0



「たつのこアリーナ」に設置されている「子育てたつのこアクション」ポスター。ポスター設置の店舗・施設が「子育て支援・応援」の目印。

集開始しました。今後、「子育てたつのこアクション」のポスターが増えていく予定です。行政による子育て環境を充実させる制度・サービス拡充はもちろん、産学官民が一体となつてよりよい子育て環境を構築できるよう、まち全体で取り組んでいます。ぜひ、ご期待ください！